

安全衛生・健康管理



★働く場所の（整理、整頓、清掃、清潔）を徹底して、安全に仕事をしましょう！

[腰痛] 利用者を車いすへ移乗しようとした際、介護職員が腰を痛めた。

<原因> 利用者の体重が重い。利用者との距離が離れていた。補助具の使用無し。

<対策> 2人介助。腰に負担の無い介護技術の習得。場に合った補助具の使用。

[転倒] 雨の日の外出先で足を滑らせ、転倒した。

<原因> 濡れた床を注意していなかった。靴底の水滴をマット等で拭き取っていなかった。

<対策> 濡れた床に注意して、滑り難い所を選んで歩く。靴底が水で滑り難い靴を履く。

[車椅子と接触] 車椅子の介助中、ドアを開けようと車椅子の前に出た時、車椅子に追突された。

<原因> 利用者に声をかけず、ドアを開けに行った。必要に応じて車いすにブレーキをかけなかった。

<対策> 利用者に声掛けを行い、ブレーキをかけてから作業を行う。利用者の心理状態、動作能力などを常に把握し、利用者の動作をイメージしつつ誘導を行う。

★危険な箇所を見つけ、危険を防止しましょう！



「ヒヤリ・ハット」報告をしましょう！

ヒヤリ・ハットは、職場にある危険を理解するための大変貴重な情報です。報告をすることで、自身の危険感受性を高めることができます。また、他のスタッフに何が危険かを認識させることができます。

「かもしれない」で危険を意識しましょう！

★ 移動中「すべるかもしれない」「つまづくかもしれない」 ★ 重い物「腰を痛めるかもしれない」

★ 脚立に立つ「落ちるかもしれない」 ★ 包丁を使用「手を切るかもしれない」

★ お湯を沸かす「ヤケドするかもしれない」 ★ 掃除機「ゴミ以外の物を吸込むかもしれない」



★健康管理をしましょう！

年齢と共に筋肉、眼、耳、骨、認知判断の順に機能の低下が始まると言われています。

個人差はありますが、筋肉は30歳代後半から、眼は40歳代後半から、耳は70歳代以降、

骨や認知判断は80歳代前後からというのが、一般的な発現時期です。

健診結果の確認



○健康診断やストレスチェックで自身の健康状態を確認しましょう。

※健康状態は、常に職場に報告相談する事が大切です。

※報告相談は、職場や利用者への対応を迅速に対応する事に繋がります。

○運動を習慣づけ筋力低下を予防しましょう。また、仕事前の準備体操も大変効果があります。

★インフルエンザ予防接種を行いましょう！

インフルエンザ予防接種は、ある程度の予防効果があり、感染後の重症化を防ぐ効果もあります。

インフルエンザにならない、利用者等にうつさない、健康管理・予防生活に努めましょう。

○インフルエンザ予防接種費用の補助を行います。（領収書を事務所に提出）

①上限1,500円まで還付します。

②65歳以上の方は、高齢者インフルエンザ予防接種費の1,000円を還付します。

※10月1日～12月末までの領収書を対象とします。

